

令和4年度 第1回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和4年6月2日(木) 18:30~20:00

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之・佐野 英和・木下 さひ子・寺田 洋子・委員 清美・前馬 晋策・橋爪 恵子

武友 加代子・谷口 浩之・河合 隆之

欠席委員:以登田 毅

(敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美・教頭 紅林 陽子

1. 校長より挨拶

昨年度の学校協議会において、委員の皆様から様々な意見をいただいた。頂戴した意見はどれも貴重なものばかりで、教員にも伝えることで千里丘小学校にいい効果が出ていると感じている。昨日の教育長との面談の中でも、提言の内容が細部にわたっており、幅広い意見をいただいているということについて評価をいただいたところである。

外部からの意見をいただくことで、学校がさらに先に進める「進化」、より深める「深化」、より新しくする「新化」、真のものとする「真化」となるために、本学校協議会でご意見をいただき、発信したいと考えている。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【委員自己紹介】

本年度は新しいメンバーも加わり、11名の委員のみなさまで協議会を進め、様々な立場からご意見いただきたいと考えている。千里丘小学校に求めること、また、千里丘小学校との関わりについて、自己紹介いただきたい。

前馬 晋策(元小学校校長) 本年度よりせつつひかり幼稚園の園長を務める。せつつひかり幼稚園には千里丘小学校区からも通う園児もいる。協議会では、考えをどんどん投げかけたいと思っている。他の委員からもぜひ積極的に意見を出していただき、活発な協議を行いたい。その内容は今年度も教職員に伝えて欲しい。

中田 康之(元PTA会長) 毎年これが最後だと思いながら出席させていただいている。子どもは大学1年生、高校2年生に成長し、PTAから離れて久しい。どこまで意見が言えるかどうか分からないが、尽力したい。千里丘小学校の児童はいい子が多いと思っている。正しいことができる校風を維持して欲しいと思う。

佐野 英和(元PTA会長) 学校とはなかなか縁が切れない。摂津市内の学校には、工事関係でよく訪問しており、また、来年、娘が第三中学校に教育実習に行く等、摂津市立小中学校との関わりが深い。よろしくお願いいたします。

寺田 洋子(主任児童委員) 自身が千里丘小学校出身。3年生から通った。主任児童委員になったのは一昨年。千里丘小学校は一人ひとりが大切にされる学校であって欲しいと思っている。

木下 さひ子（保護司・認定こども園Kentoひまわり園園長）	千里丘小学校の校区にある KENTO ひまわり園の園長をさせていただいている。この協議会を就学前教育と小学 1 年生が繋がっていくような機会にし、職場に活かしたい。
藤浦 清美（青少年指導委員）	自身も保護者として学校とは関わりを持ってきた。上の子は就職、下の子も大学生に成長した。青少年指導員として務め、わくわく広場の指導員としても携わらせていただいている。千里丘小学校の子は本当にかわいい。6年生の子がいつの間にか敬語を使って話すようになっており、1年生の時からの成長を感じた。微力ながら尽力したい
橋爪 恵子（民生児童委員）	民生児童委員2年目。昨日のセーフティパトロールに参加した際、男の子が赤いランドセル、女の子が青いランドセルを背負っていて、良いなあと思った。学校だよりを見て、運動タイムの取組みがさらに進んでいることを嬉しく思った。
武友 加代子様（民生児童委員）	子ども3人が13年間千里丘小学校に通い、PTA役員も務めた。本協議会で少しでも意見を出せたらと思う。
谷口 浩之（現PTA役員）	今年度のPTA副会長。実際に今年度携わる中で、子どもたちが楽しく学校に通えるような学校づくりに協力したい、という思いがある。本協議会では、自ら率先して意見を述べていきたい。
河合 隆之（地域コーディネーター・少年補導員）	味舌小学校で6年間PTA会長を務め、現在は地域コーディネーターと少年補導員を務めている。10年前に千里丘小近くの長野西に住んでいた。ランニングで明和池公園を訪れた際、千里丘小学校の子どもたちを見かけていた。先生が笑顔で元気に活躍できていることが、子どもたちの笑顔につながる、と考えている。この協議会で少しでも学校が活性化するために意見が言えたらと思う。
以登田 毅（元小学校校長）	都合のため欠席。

2. 学校の様子

- 校長 今年度の学級数は、13 クラス（1 年生 3 クラス、2～6 年生は 2 学年）。児童数は今年度で大きく増えた。今後も増加傾向にある。支援学級については 6 クラスである。
- 定数が 3 年生まで 35 人学級。支援学級については 8 名が定数となっている。
- 今年度は新たに栄養教諭が配置されており、食に関する指導を担っている。給食の時間に各学級を回って、色々な食に係る知識や食材の話を通して興味を持たせるなど、食育を進めている。
- 委員 栄養教諭は市で定数が決まっていて、なかなか配置されない。よかった。
- 校長 教員は 25 名。そのうち初任者 2 名、新卒講師 1 名を含み、平均年齢が 35.4 歳である。経験年数の平均も短い。総じて若いという状況。6 年生以外は、クラスの担任のうちどちらかが“担任を務めるのが初めて”という状況だが、今は千里丘に限らずどの学校でもこういう状況が生まれている。
- 会計年度任用職員が 8 名。働き方改革の一環としてスクールサポーターが導入されている。印刷

や消毒、児童トイレの掃除など、教員でなくてもできる仕事などを担っている。他に、児童の支援を行う教育活動支援員、読書活動を進める読書活動推進サポーターなどが配属されている。ただ、教育活動支援員については、定数が埋まっていない状況である。

他に、SC（スクールカウンセラー）、SSW(スクールソーシャルワーカー（学校、家庭、専門機関をつなぐ福祉の専門家）)がいる。

委員 学校基本調査の教職員の全国平均は 40～42 歳だったと思う。全国と比べたら若いと思うし、校長の苦勞も多いと思う。

校長 4 月からの様子を紹介する。

4 月 7 日(木) 入学式。今年度は 3 部制で行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で間隔をあけることが必要だったが、体育館の狭さがあり一斉に行うことが難しかった。必要な内容だけに絞り、集合写真も別日に実施した。

4 月 8 日(金) 始業式

4 月 11 日(月) 給食開始

19 日(水) 全国学力・学習状況調査昨年度は 5 月に実施だったが、今年度は通常に戻った。

20 日(木) 大阪府すくすくウォッチ実施。6 年生にとっては連日の学力調査。すくすくウォッチで問うのは、より日常生活に則した力。知識を生活にどう生かすかを問われる。

25 日(月) 1 年生給食開始。

25・26・28 日 授業参観・学級懇談実施。学年・学級懇談は 3 年ぶりとなった。

5 月 10 日(火) 芸術鑑賞会

5 月 12 日(木) 足はやチャレンジ

5 月 13 日(金) 交通安全教室（3 年）。3 年ぶりに開催。

5 月 16 日(月) 支援教育ヒアリング

5 月 16～20 日 支援学級個人懇談

5 月 30・31 日 林間学校（滋賀県の吹田市立自然の家もくもくの里）。予定通りの日程で行ったのは、3 年ぶり。

5 月 27 日～31 日 春の校外学習 これも 3 年ぶり。

6 月 1 日(水) 第 1 回セーフティ

6 月 2 日(木) 全校集会

この間ボーリング調査が始まり、本日も続いている。

委員 全校集会とはどんな形で行っているのか。

校長 今は Zoom で実施している。前半は学校としての集会、後半は児童集会として児童会が進めた。

3. 学校経営計画

校長 中期的目標の大きな柱 3 本は昨年度と変わっていない。昨年度ご意見いただいたことを鑑みて、今年度の計画を立てている。特に成果指標については昨年度ご意見を多くいただいたところである。出来る限りご意見を参考にし、今年度の指標に盛り込ませていただいた。

裏面の重点目標について：本年度も学校マネジメント支援事業の中で重点校として選ばれている。

現在進めている取組みの内、体力向上についてさらに進めて市内に発信して欲しい、といわれており、引き続き力を入れていきたいと考えている。

1—(1)にある「スタートカリキュラム」は新しい取組みである。1年生のスタートを円滑にどう進めていくか、ということについて研究を進める予定である。よく教員が就学前園児に「45分座れるように」と求めるが、発達段階としては無理とされている。楽しく学べたら楽しく学校に来られる。子どもたちが「学校が楽しい」「学校に来たい」と感じながら学びに向かえるようなしかけを学んでいきたい。今年1年かけて取り組んでいきたい柱である。

1—(3)に掲げている人材育成も力を入れたい。先生の経験年数が浅く、平均年齢も若い。日々のちょっとした悩み（例えば懇談で何を話せばよいのか、何を準備するのか、等）OJTももちろんだが、一人で抱え込まないようにすることがねらいである。

委員 最近初任者の早期退職がよくあると聞いている。採用後1～2カ月で辞めてしまう人もちらほら出ていると聞いたことがある。

校長 3にある「開かれた学校」情報発信についても、進化・深化をしていきたい。こういう観点を大事にした方がいい、こういったことにも取り組んで欲しいなど、ご意見があればいただきたい。

委員 学校の先生については研修で悩みを相談する場があるが、校長先生・教頭先生については相談する相手はいるのか。心配だ。

校長 昨年度、校長の悩み・相談をする立場にあったのが、市教育委員会の学校経営サポーターだった。

委員 新任校長の研修だけでは、なかなか役に立たない。日々、校長、教頭は悩みが尽きない。時間外勤務も多いし悩みも多い。

校長 昨年度で言えば、コロナ対応で、運動会をどのように行うのか、修学旅行をどうするのか、など、一人で決断しないといけない場面が多々あった。悩みは多い。

園長先生方には、相談をする場はあるのか。

委員 部会で同じ立場の方と意見交流する場はある。

校長 会社の経営者はどうするのか。

委員 商工会といった経営者が集まる団体があり、経営に関する相談に乗ってもらっている。ロータリークラブやライオンズクラブなどもある。今、校長にそのような助言をする立場の方が空席というのは気になる。心配だ。

校長 運動タイムは外の遊具を使って行っている。全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、体育の授業について「できるようになったら楽しい」と答えている児童は多いが、実際に「できるようになって楽しい」と答える児童は少なかった。そういうことから体育の授業改善も含め、体力向上を重点に掲げている。ついでに、学校協議会の皆様からの意見の中で、体力向上について応援の声をいただいたことが教師のモチベーションにつながった。今年も取組みを続けていく。

委員 もっともっと運動遊びに取り組んでほしい。幼稚園児は驚くほどよく遊ぶ。小学校では「座っておく」ことに力を入れているように思うが、せっかく幼児期に養った体力を一旦下降させて、それから上げている印象だ。また、園児は興味・関心のかたまりだ。学校ではストップかけることが多いが、たくさんの経験をさせてあげてほしい。

委員 わくわく広場の様子を見てみると、子どもたちはよく遊んでおり、生き生きしている。6年生でも楽しみに来てくれる子がいて、嬉しい限りだ。

校長 3年ぶりの校外学習での子どもの表情が生き生きしていた。1年生などは市場池公園という近場ではあったが、「楽しかった!」と目をキラキラさせて帰ってきた。教室以外での学びの大切さを改めて感じ、そこから吸収する子どもの感性は大切だな、と思った。コロナ禍で調理実習も校外学習もできなかったことが、経験不足につながっている。まだコロナは完全に収束はしていないが、出来るだけ色々なことをしたい。

委員 息子を通じて感じることもなのだが、外で遊ぶ子とそうでない子の二極化が進んでいる。外で遊んでいるのはいつも同じメンバー。「違うメンバーも誘ってごらん」と声はかけている。学校でも先生から提案などしてみただけだと思ふ。

校長 遊びの中からの学びは大事だ。

委員 工事が始まったりすると、外で遊ぶ時間が減るのでは、と心配している。

校長 今年度中は今のグラウンドの状況を保てるが、次年度は工事が入ってきて制限が始まる。運動場が使えなくなる期間については、昨年度末の学校協議会でいただいたご意見を受けて、建て替え工事の提案が変わってきた。

委員 学校協議会の意見が取り入れられたということか。

校長 市教委でも本校の学校協議会の提言はよく読んでいただいている。

委員 児童の施設使用制限の期間については、心配している。工事が始まった途端、遺跡が出てきてストップする、などという事例もある。今年度も意見を市に届けていただきたい。

校長 引き続き発信していきたいと思っている。

委員 エネゲートさんのグラウンドなども使わせてもらえたら、と思うのだが。

校長 エネゲートの中に入ったことはないが、テニスコートなどがあると聞いたことがある。活用できるのなら可能性を探っていきたい。

委員 エネゲートなら近くて、児童の移動も負担が少ない。こちらからも打診してみようと思う。

委員 経営計画全般に言えるのだが、児童を「育成」する、と肩肘を張りすぎているのではないだろうか。児童は良い環境を与えたり、良い人に出会ったりすることで育つ。どう育ちを支援するか、教師がどう方向を正すかが大切である。「ねばならない」教育ではなく、しなやかさ、のびやかさを大事にしてほしい。その方が教員もののびのびと活動できると思う。また、感性を大事にしてほしい。

委員 自身が積んできた中学の教師の経験からいうと、経験のない教員がいる場合は、「失敗させない」ために守りに入りがち。のびのびさせながらルールは学んでいくのだが、規律と自由のバランスが難しいと思う。のびのび伸ばすことは大切だが、経験の少ない先生方がどれだけ余裕をもって子どもたちを見ることができるか。難しいと思う。

校長 新任教員たちは、ほとんど余裕なく毎日必死な状況が見て取れる。経験がないことにより、毎日毎日に必死で余裕がなく、見通しを持つことが難しい。話をしてもピンと来ないことが多い。

委員 同じ学年の先生同士でフォローし合う状況は整っているのか。

校長 学年で会議をする機会は定期的に設けているが「話し合う」というより若い方が一方的に話を聞いている状況。今年度は、次の段階として低・中・高の教員に分かれて大きな組織で話し合う場を設けている。

委員 人間なので、二人だと「合う」「合わない」がある。複数だと組織として進められる。

委員 経験のある先生も忙しい。フォローも大変だろう。

- 校長 経験があると言っても10年そこそこ。バランスよく在籍していたらいいのだが。
- 委員 千里丘小学校は今、児童数が増えて先生も増えているところ。職員が増加することは良いことだ。単学級は苦しい。2学級も一方のクラスが崩れそうになったら双方崩れるケースがある。3学級あると、崩れそうなクラスを2人でサポートすることもできる。学校は今過渡期。みんなで引っ張り上げられるようにして欲しい。
- 委員 園でも同じような傾向があり、経験のある者と経験のない者とで学年を組むことが多い。経験のある者が進めていく。
- 委員 保護者懇談会がうまくできるようにアドバイスして欲しい。懇談が“混乱”して、懇談が“困難”になるケースがある。研修をするなど、フォローをして欲しい。
- 校長 経験の浅い教員は、保護者と連絡するのを極端に恐れる。懇談は避けたい様子。うまくつながるためのやり方を身に付けて欲しい。
- 委員 保護者対応について学ぶ場はあるのか。
- 委員 大学でもあまりないのが現状。
- 校長 千里丘小学校の保護者は感情的に言うてくることはないのだが、それでも抵抗があるようだ。
- 委員 若い先生からすると保護者はみなさん年上。垣根を感じているのでは。先生も話しかけられて嬉しそうにしている先生と、目をそらす先生がいる。
- 校長 何もないのに学校から電話がくることはない。電話を受ける保護者にとって、学校からの電話はどう捉えられるのだろうか。
- 委員 我が子も、頭に空き缶が当たって頭から流血したことがある。けがはたくさんあり、その都度お電話いただいて有難く思った。家庭訪問は今もされているのか？
- 校長 家庭訪問がなくなっている。特にコロナにおけるこの2～3年は年度初めに参観・懇談もできず、トラブルがあって初めて保護者に会うパターンだった。
- 委員 学級通信が上手な先生は、学校の様子が分かるし、いい先生だな～とありがたかった。前は親睦会が毎年あって、休日に出かけていた。その場で顔を合わしてお話する機会があったのだが。
- 委員 連絡帳のやり取りはあるのか。
- 校長 連絡帳はあるのだが、必要最低限のやりとりとなっている。
- 委員 学校から電話がかかってきたら、どう思われる？
- 委員 まあ、びっくりする。とんでもないこと起こったのかな、と思う。
- 委員 学校からの電話は、そうなる。逆に、保護者からの電話は「何か不手際があったのでは？」と構える。校長時代、若い人には普段からいいことも伝えるように言っていた。コミュニケーションの取れる先生を育てて欲しい。

4. その他

- 校長 学校の増改築に関しては折々お伝えしていきたい。詳細が決まる前に、いただいたご意見を市に伝え、反映させられるようにしたい。

5. 次回日程

次回は7月2週目の3時間目に授業参観とともに実施予定。詳細は追って連絡する。